

平成22年12月

# 國本泰臣 学位論文審査要旨

主 査 久 留 一 郎  
副主査 池 口 正 英  
同 北 野 博 也

## 主論文

Deleted in esophageal cancer 1 (DEC1) is down-regulated and contributes to migration in head and neck squamous cell carcinoma cell lines

(DEC1は頭頸部扁平上皮癌細胞株において発現が抑制され、細胞の遊走能に影響する)

(著者：國本泰臣、中野星児、片岡英幸、嶋田裕、押村光雄、北野博也)

平成22年 Journal for Oto-Rhino-Laryngology, Head and Neck Surgery

73巻 17頁～23頁

## 審査結果の要旨

本研究は頭頸部扁平上皮癌細胞株を用いて、食道癌で高率に発現が抑制されている遺伝子であるDeleted in esophageal cancer 1 (DEC1) の発現をリアルタイムPCRにて解析し、さらにクロマチン免疫沈降法を用いてDEC1の発現調節や、細胞の遊走能・浸潤能との影響などを検討したものである。その結果、頭頸部扁平上皮癌細胞株の66.7 %でDEC1の発現低下を認めた。DEC1の発現調節にはヒストンH3のリシン27トリメチル化が関与しており、リシン4ジメチル化やリシン9ジメチル化はあまり関与していないと考えられた。また、DEC1が発現している細胞の遊走能が低下しており、浸潤能についてはDEC1の発現に関わらず明らかな差が認められないことが判明した。本論文の内容は、頭頸部外科学分野において、DEC1が頭頸部癌における将来の癌抑制遺伝子の候補となり得る可能性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。